

以下の文章は文部科学省「令和 6 年版科学技術・イノベーション白書」の「AIがもたらす科学技術・イノベーションの変革」からの抜粋である。この文章を読み、下記の問いに答えなさい。

【本文】

21 世紀は、「知識集約型社会」とも言われ、資本設備への依存度が高く、製品が価値の中心とされている資本集約型から、スマート化によってあらゆる製品やサービスの高付加価値化が進んだ知識集約型と呼ばれる社会への転換が起っています。また、こうした中でデータ資源が経済成長の原動力となる、データの時代とも呼ばれています。この背景の一つには、人工知能(AI)という技術の急速な進化があり、特に近年の生成AI技術の飛躍的な進展は世界中で大きな関心を集めています。AIは、データ解析からロボット技術、医療、製造業など、あらゆる技術や業種に大きな影響をもたらしてきています。また、対話型生成AIなどのように専門家ではない人々でも利用できるインターフェースでのサービスの提供が広がったことで、AIは多くの人が活用できる身近な技術となるとともに、私たちの日常生活や価値観も、AIによって変わりつつあり、未来の社会はその影響を更に強く受けることになるでしょう。第5期科学技術基本計画において、政府は我が国が目指すべき未来社会の姿として「Society 5.0」を提唱しており、それは「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」と定義されています。Society 5.0 で実現する社会は、IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出す社会です。また、AIにより、必要な情報が必要なときに提供されるようになり、ロボットや自動運転などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、経済格差などの課題が克服され、イノベーションを通じて一人ひとりが快適で活躍できる社会となることを目指しています。現在の第6期科学技術・イノベーション基本計画においても、

この構想は継承されており、第5期の計画で示した社会像を、国内外の情勢変化を踏まえて具体化させていくことが必要であるとしています。実際に、国内AIシステム市場をみると、令和5年（2023年）の市場規模（エンドユーザー支出額ベース）の前年比成長率は34.5%になっており、また、令和5年から令和10年（2023～2028年）の年間平均成長率は30.0%で推移するとする調査結果や予測があるなど、急速な成長となっており、こうした社会像の実現を後押ししています。IoT、ロボット、AI、ビッグデータといった社会の在り方に影響を及ぼす新たな技術が急速に進展する中、私たちが直面する課題は、単に技術を取り入れるだけではなく、それをどのように社会全体のイノベーションに結びつけるか、そして、これらの技術との共生の形をどう築くかという点にあります。

【設問】（2問とも回答すること）

問1. 下線部に書かれている、AIや技術進歩によって、どのように3つの課題が克服されるかを具体例を挙げて述べよ。

問2. 今後我々がAIを活用する際に注意すべき事を述べよ。